

(4) 日高地域

ア 地域の概要

- (ア) 日高地域は本市南西部に位置し、国道482号と国道312号がJR山陰本線江原駅周辺で結節しています。
- (イ) 平成29(2017)年3月には北近畿豊岡自動車道が日高神鍋高原インターチェンジまで延伸開通しており、より一層利便性の高い交通条件が整ってきています。
- (ウ) 市街地部には、豊岡市立歴史博物館―但馬国府・国分寺館や県立日高高等学校、公立豊岡病院日高医療センター等の文教厚生施設が立地しており、また、国道312号沿道には商業施設も見られ、都市機能は充実しています。
- (エ) スキー場等で知られる神鍋高原や、阿瀬溪谷等の山あいの恵まれた溪谷景観等が見られ、多くの観光客が訪れています。
- (オ) 江原駅東側では神鍋高原の玄関口として、賑わいと潤いのある景観を形成するため、景観形成重点地区に指定しています。

イ 地域の課題

- (ア) 北近畿豊岡自動車道の開通効果をまちづくりや地域振興、観光振興等に活かす必要があります。
- (イ) 駅周辺の市街地では、周辺の都市機能の集積を活かして、暮らしやすい住環境の確保、定住促進等を図る必要があります。
- (ウ) 現在も指定している特定用途制限地域等による適正な土地利用を維持していく必要があります。
- (エ) 安全で快適な住環境の形成とともに、良好な地域環境の維持・向上や自然災害の防止を図るため、里山の美しい景観や豊かな自然環境を保全し活用する必要があります。
- (オ) 神鍋高原や但馬国分寺跡等を活用し、地域の自然、文化資源との交流を深めていく必要があります。



ウ 地域づくりの将来像と目標

(ア) 地域づくりの将来像

「自然と芸術を活かした魅力あふれる地域づくり」

(イ) 地域づくりの目標

- ① 歴史、芸術、文化を活かしたにぎわいの創出
- ② 交通利便性を活かしたにぎわいの創出
- ③ 観光、レクリエーション資源を活かした地域の活性化
- ④ 住民が主体となった地域の魅力の向上

エ 目標に沿った地域づくりの方針

(ア) 歴史、芸術、文化を活かしたにぎわいの創出

- a JR江原駅周辺では、商業、居住、観光文化、行政機能等の都市機能の集積を活かすことで、日常生活における利便性の高い住宅地を形成し、にぎわいの創出に努めます。
- b 豊岡市商工会館等の市街地内に立地する公共公益施設を活用し、官民一体となって新たな文化芸術の拠点形成に取り組むとともに、定住促進や地域振興に取り組みます。
- c 但馬国分寺跡周辺では、国指定史跡用地の保全を継続的に進めるとともに、山陰海岸ジオパークの取組みとも連携して歴史的文化的資源のより一層の活用に努めます。

(イ) 交通利便性を活かしたにぎわいの創出

- a 都市計画道路の整備、緑地空間の確保、景観の維持向上とともに、公共交通の利便性の向上、バリアフリーの推進、都市環境の充実に努めるなど、本地域の拠点にふさわしい暮らしやすい市街地環境を形成します。
- b 観光交流や物流効率等の向上を図るため、北近畿豊岡自動車道の延伸整備を促進します。
- c 北近畿豊岡自動車道インターチェンジ周辺では、地域の特性を踏まえ、日常生活や観光客の利便性の向上とともに、住環境の保全や良好な沿道景観の形成に取り組みます。
- d 東西の道路網の強化を図るため、鶴岡道路の早期事業化を促進します。

(ウ) 観光、レクリエーション資源を活かした地域の活性化

- a 氷ノ山後山那岐山国定公園を中心とする森林や阿瀬渓谷等の自然環境や景観の保全を図ります。
- b 良好な森林や里山、河川等の観光や環境学習、レクリエーション等の場合は、グリーンツーリズムを推進し、住民等と一体となって維持保全に努めます。
- c 自然とのふれあいや地域住民の健康増進等を図るため、植村直己冒険館や記念スポーツ公園等の利活用に努めます。

d スポーツイベント、合宿の誘致等を含め、スポーツと観光を融合させたスポーツツーリズムを推進します。

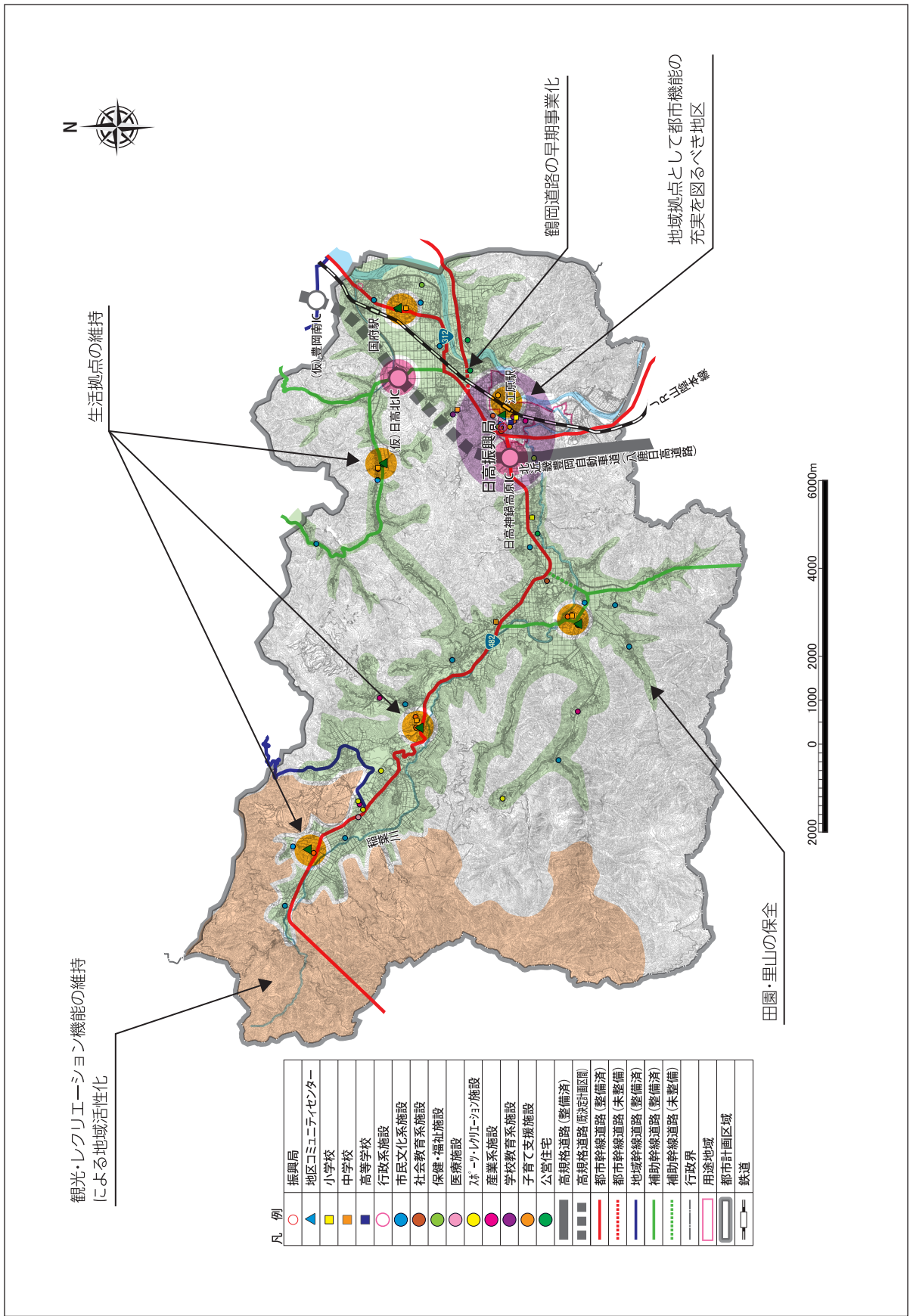
(エ) 住民が主体となった地域の魅力の向上

a 神鍋高原周辺では、レクリエーション施設や道の駅等の地域振興施設について、多様な交流の場として、自然と調和した利活用に努めます。

b 地域住民や地域コミュニティ組織と一体となって安全で安心して暮らせる居住環境の確保に取り組み、地域の魅力向上に繋がります。

c 高品質の米、高原野菜等の農業振興を図り、地域の魅力向上に繋がります。





図表5-5. 日高地域まちづくり構想図